

ゴルフマーケットデータ 2024

ゴルフフェア 2024 ゴルフ市場活性化委員会 (GMAC) セミナー配布資料 2024年3月8日

\ 始めよう、続けよう、もっとゴルフを /



<https://www.golf-gmac.jp/>



Contents

日本のゴルフマーケット	
ゴルフ場利用者数からみた市場動向	2
ゴルフ人口について	3
●レジャー白書	3
●社会生活基本調査	5
●スポーツ庁・スポーツの実施状況調査	5
ゴルフをした理由	6
ゴルフを始めた・再開した	7
ゴルフ参加希望者	8
ゴルフ練習場マーケット最新データ	8
海外のゴルフマーケット/R&A	9
米国（NGF）データ	10
参考資料	
将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）	11
・移動平均で見たゴルフ消費トレンド	12
・季節調整後のゴルフ場利用者数の動き	13
・主成分分析にみるゴルファーがゴルフに求めるもの	14

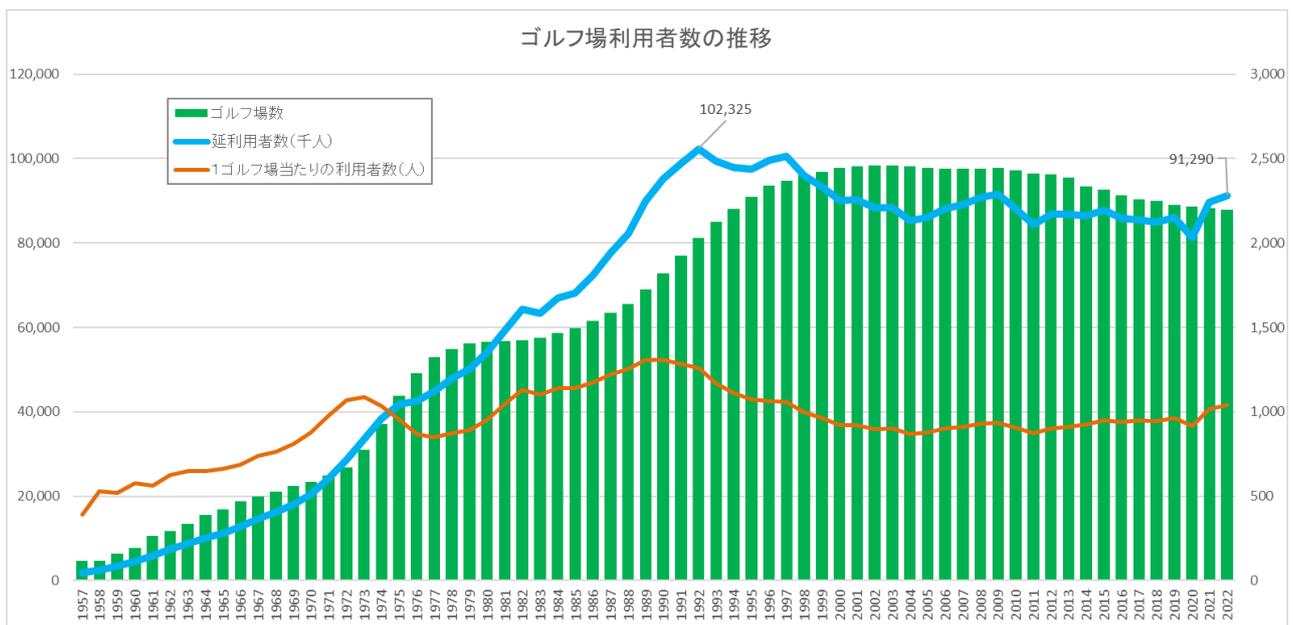


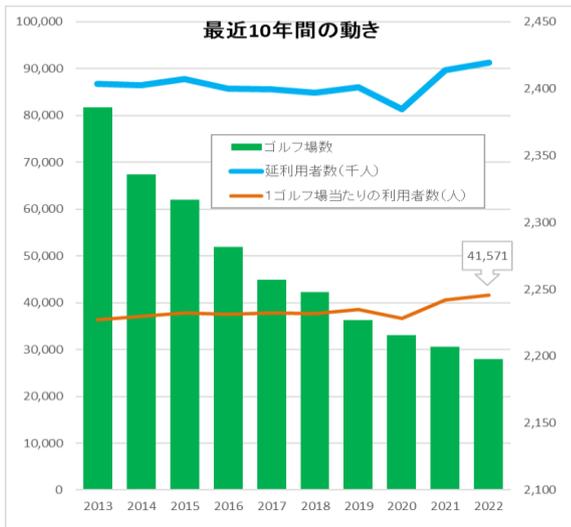
日本ゴルフマーケットの現状



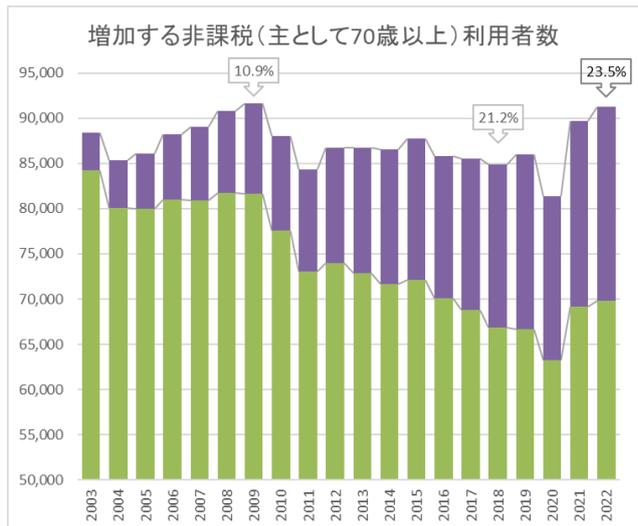
ゴルフ場プレー市場

●ゴルフ場の市場規模：一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会（NGK）がまとめるゴルフ場利用税課税状況からみたプレー規模は2022年集計延べ人数は9,120万人です。2020年は新型コロナウイルス感染症によるコロナ禍で5.4%の減少を見ましたが、21年には10.3%の2桁回復を遂げました。22年は1.8%の増加と安定した利用状況に戻っています。





●最近 10 年間のゴルフ場利用者数の図でも明らかなように、1 ゴルフ場平均の利用者数はわずかに増加傾向を続けている。これはゴルフ場数の減少による市場バランスの変化の結果であり、ゴルフ場の閉鎖が続く一方で新規にオープンするゴルフ場が登場していない現状から、需給バランスの調整状況している。



●ゴルフ場利用者状況で明確な動きは、人口の高齢化を反映して非課税利用者（多くは70歳以上のゴルファー）の増加で、非課税制度が導入された2003年以降増え続けており、2009年には総利用者数の10%を超え、2018年には21.2%に、最新の2022年は23.5%にまで率を高めている。今後のゴルフマーケットについては、社会構造の変化に対応した新たな視点が必要。

ゴルフ人口について

まず、ゴルフ市場規模は、ゴルフ人口×支出額で説明されます。

重要な要素であるゴルフ人口については、日本ではレジャー白書とスポーツ庁がスポーツの実施状況等に関する世論調査を平成28年から毎年発表しています。また、5年おきですが総務省の社会生活基本調査が実施されており、ゴルフ人口およびゴルファーの特性を把握することができます。レジャー白書は1977年から発行されていることから長期のトレンドを確認できますが、サンプル数が3,306（2023年）と少ない。社会生活基本調査は171,360と多いが、5年おきの調査のため未調査年については補完が必要になります。いくつものゴルフ人口データがあることは混乱の元ですが、スポーツ庁の世論調査は2022年からサンプル数は40,000と多く、毎年実施されることから必要十分なデータとなっているといえます。ゴルフ人口については業界としての見解の統一が必要と考えられます。

●レジャー白書のゴルフデータ

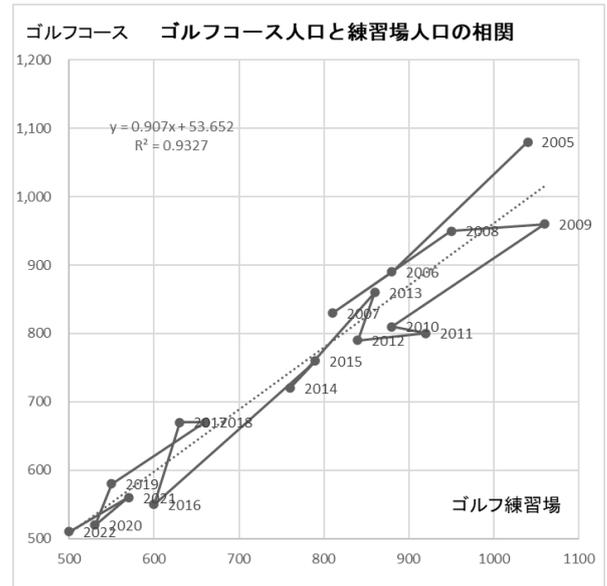
レジャー白書のゴルフ関連データは、ゴルフコースとゴルフ練習場の参加率が、そしてゴルフ場、ゴルフ練習場、ゴルフ用品の市場規模推計データがまとめられています。調査対象は、15歳以上70代までの男女です。最新のレジャー白書2023のサンプル数は、男性1,631、女性1,675、合計3,306でした。

●ゴルフコース人口 **510** 万人

●ゴルフ練習場人口 **500** 万人

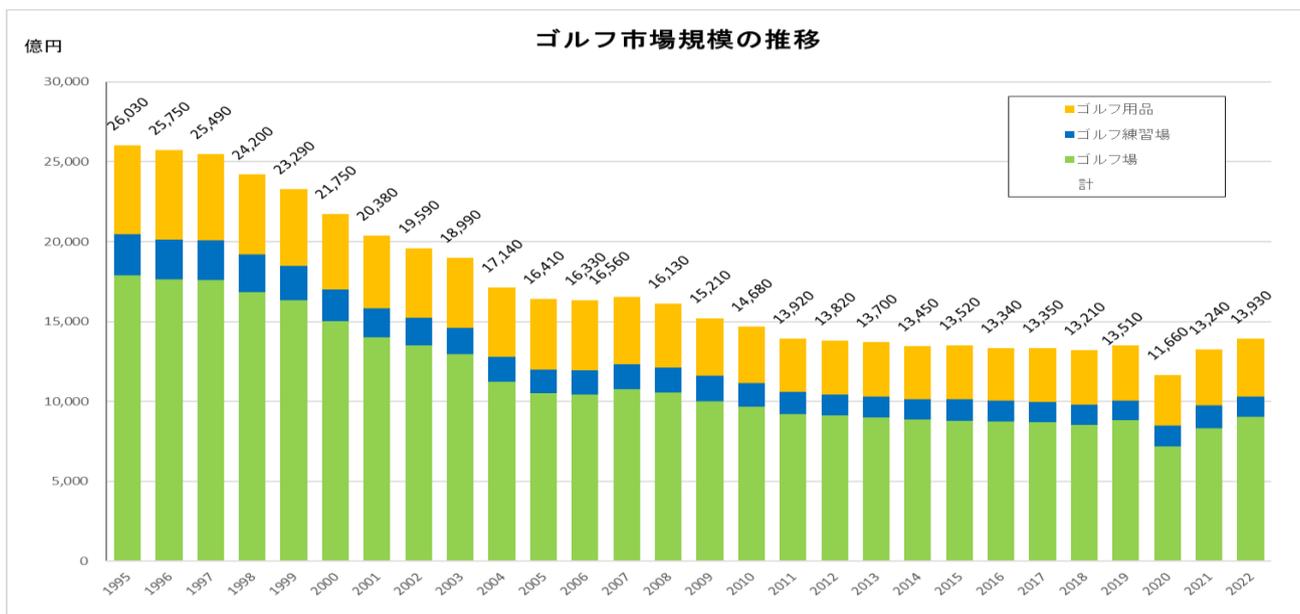
レジャー白書によると、ゴルフコース人口、ゴルフ練習場人口ともに減少傾向が続いています。両者の相関をみると、どちらかの参加率が増えれば一方の参加率も増えるという強い正の相関関係が確認できます。逆に一方が参加率を下げると他も同じように参加率を下げる圧力が起こるはずです。

この関係は、現在のような減少傾向の中にあっては、本来であればゴルフ初心者のニーズを吸収して、ゴルフ人口（参加率）を増やす基盤整備機能を持つゴルフ練習場で参加率を上げることが重要になります。



●ゴルフ市場規模

レジャー白書が推計するゴルフ市場規模は、2022年はゴルフ場 9,050 億円（対前年比 8.5%増）、ゴルフ練習場 1,240 億円（同 13.3%減）、ゴルフ用品 3,640 億円（同 4.9%増）で、3業種総計で1兆3,930 億円（同 5.2%増）でした。



●社会生活基本調査ゴルフデータ

社会生活基本調査でまとめられているゴルフ人口は、ゴルフ練習場を含む人口として発表されています。このため、ゴルフコースとゴルフ練習場別の人口把握は他の、例えばレジャー白書やスポーツ庁の世論調査結果から案分するなどの対応が必要になります。対象は10歳以上で、令和3年（2021）の調査では総サンプル数は17万1,360でした。

同調査では

●練習場を含む**ゴルフ人口は773万8,000人**

●スポーツ庁

スポーツの実施状況等に関する世論調査

スポーツ庁の調査は、毎年実施され、サンプル数も4万（2022年調査より）と、この種のアンケート調査としては規模が大きいことから、スポーツ庁の調査結果から、ゴルファーのプロフィールを詳しくまとめました。調査対象は17歳以上70歳代までの男女です。

●ゴルフコース人口 **604万人**

●ゴルフ練習場人口 **511万人**

サンプル総数は、男性1万9,910、女性2万68で、合計4万です。調査結果はRAW（生）データとして公表されていますから、分析に便利です。ゴルフだけのサンプル数は、ゴルフコースが2,549（男性2,188、女性361）、ゴルフ練習場は2,158（男性1,782、女性376）です。また、生データですからゴルフコースと練習場のどちらかを利用しているという人も抽出でき回答数は3,002でした。

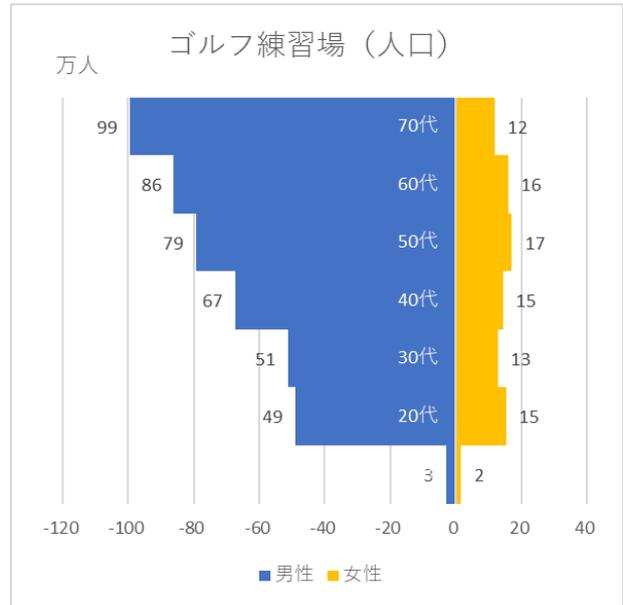
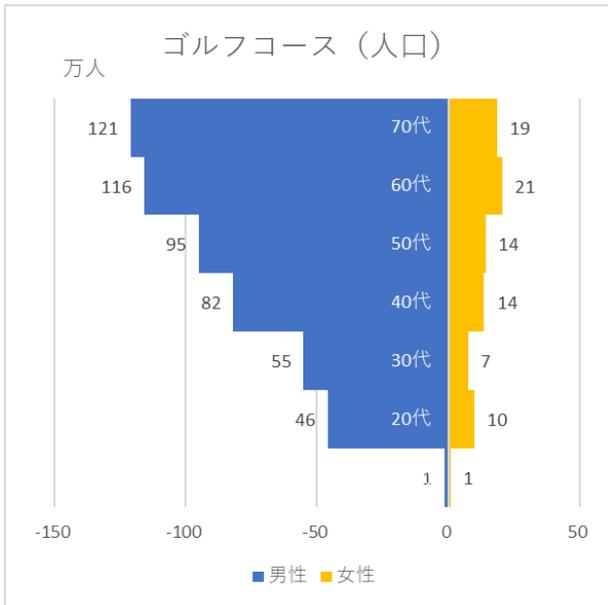
性別、年齢別に集計した参加率は右の表のとおりです。調査時点の推計人口から算出したゴルフ人口をグラフにしたのが次のゴルフ人口ピラミッド図です。

※アンケート調査で必要とされるサンプル数は、ゴルフ人口の推計される規模からする誤差の許容範囲を3%とした場合1,067、5%の場合には385とされます。

	参加率	
	ゴルフ（コースでの パークゴルフ ラウンド）	ゴルフ（練習場・シ ミュレーションゴル フ）
全体	6.4%	5.4%
男性	11.0%	9.0%
女性	1.8%	1.9%
10代	1.0%	1.9%
20代	4.4%	5.1%
30代	4.6%	4.7%
40代	5.5%	4.7%
50代	6.2%	5.5%
60代	9.1%	6.8%
70代	8.5%	5.9%

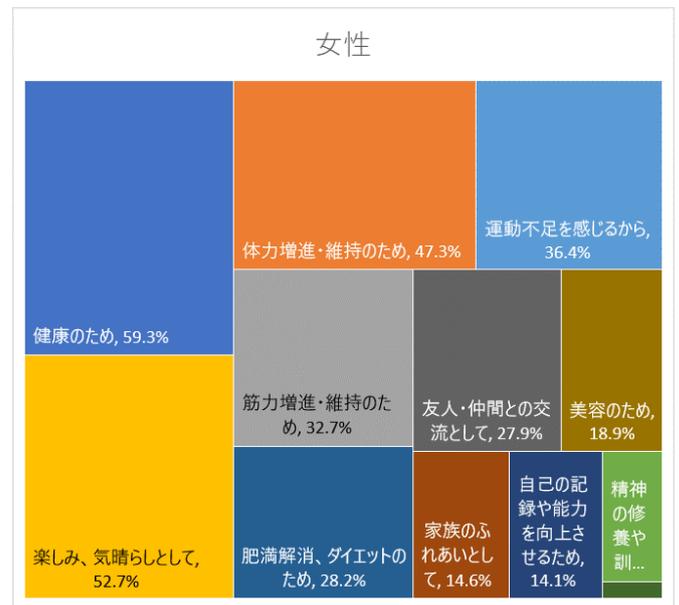
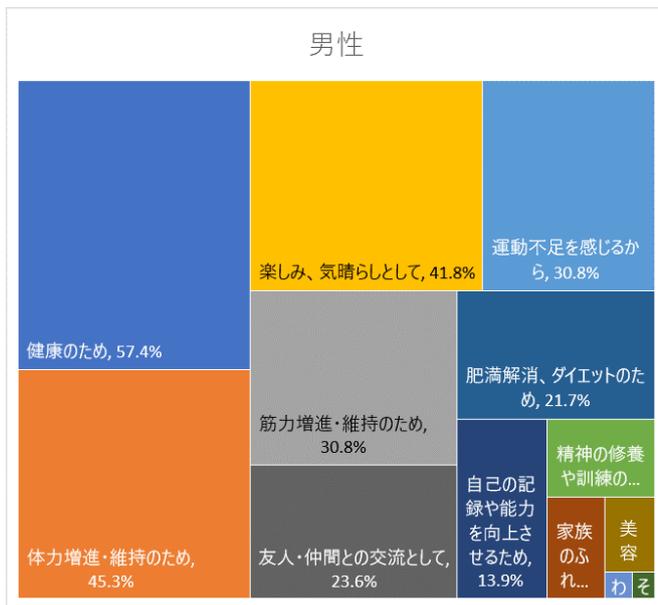
●ゴルフ人口ピラミッド

ゴルファーの人口構造はこんな感じです。



●ゴルフをした理由

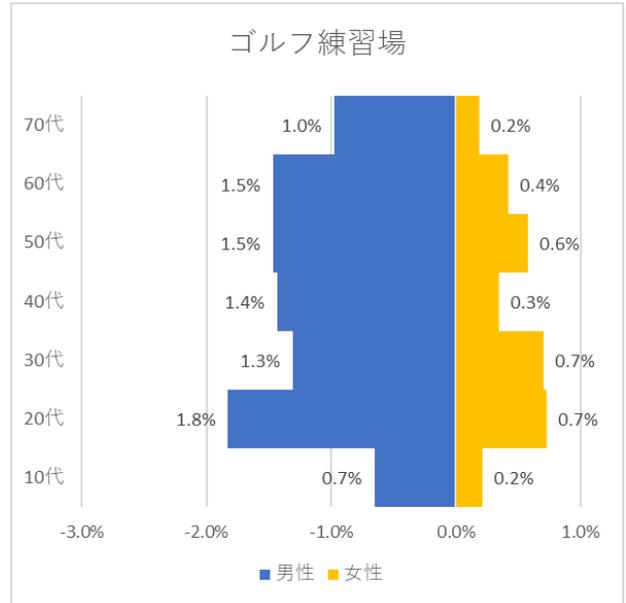
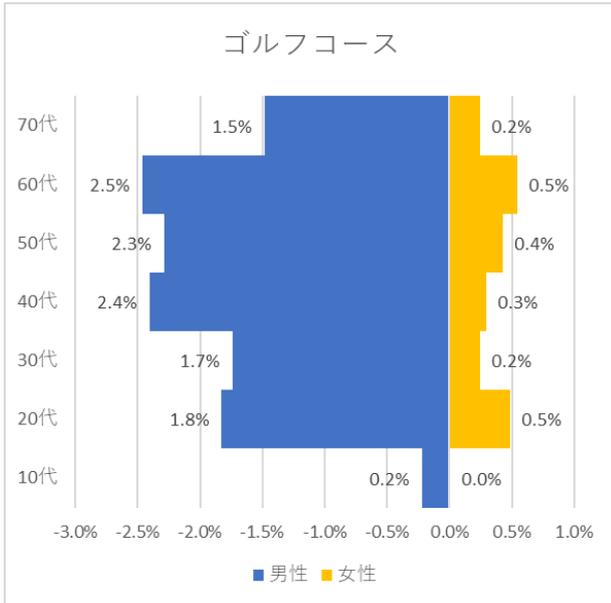
ゴルフをした理由を知ることによって、ゴルファーの主要な関心がどのような点にあるかが分かります。



※参考資料 14 頁の主成分分析の項を参照

●ゴルフを始めた、再開した人は

※パーセントで表記してあります



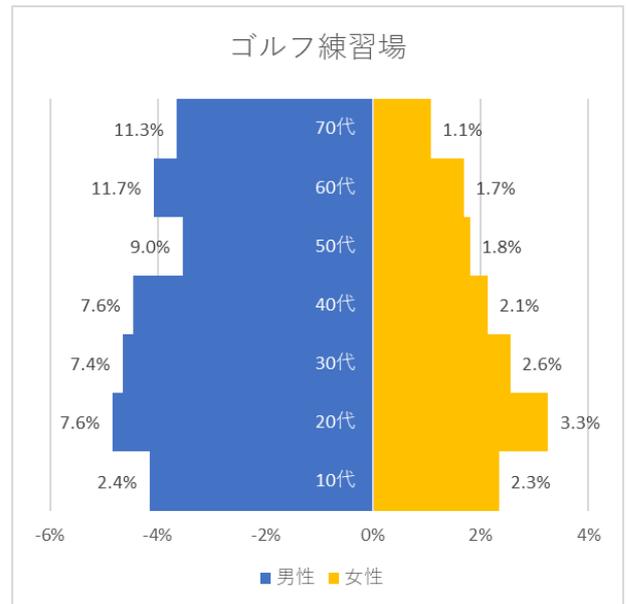
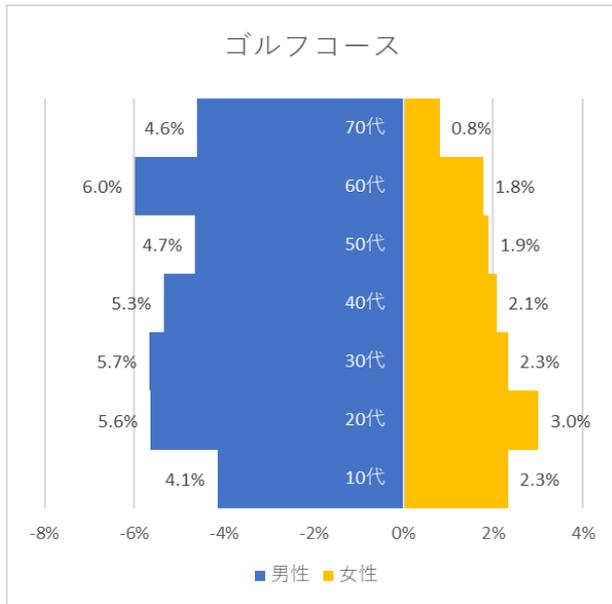
ゴルフを始めた、再開した人は、40代から60代に多く、ゴルフ練習場では20代が多かった。

●ゴルフを始めた、再開した理由・動機

ゴルフを始めたきっかけは、友人・知人・同僚に誘われたが最も多く、家族や友人の誘いも大きな誘因になっています。ゴルフを始める切っ掛けとしては、誘い・誘われるという関係性が強いことが分かります。



●ゴルフを始めたいという希望者

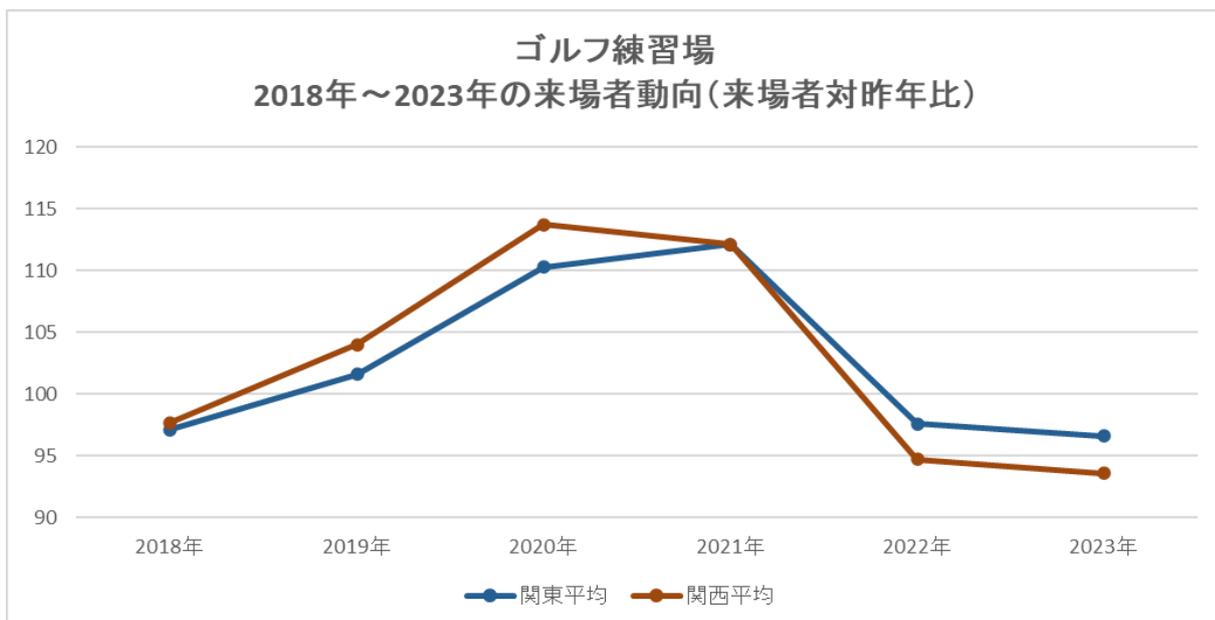


ゴルフに関心を持っている人はこんなに多いのです。特に若い層で参加希望を持っている人が多い。

●ゴルフ練習場の利用状況

2018年～2023年の来場者動向(来場者対前年比)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
東京23区内	97.9	100.6	114	116.9	97.2	95.1
東京23区外	98	100.4	103.7	111.2	97.6	109.9
神奈川	97	101.7	109.9	115.4	98.1	94.1
埼玉	96.3	103.2	111	110.8	95.6	95.4
千葉	98.4	98.5	112.7	112.8	93.6	95.2
静岡	101.3	105.8	110.9	107.7	100.5	97.4
関東平均	97.1	101.6	110.3	112.1	97.6	96.6
関西平均	97.7	104	113.7	112.1	94.7	93.6



出典：公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟

世界のゴルフマーケット



R&A 発表（Global Participation Report 2023）によると：

R&A が統括する米国およびメキシコを除く世界 146 カ国のゴルフ人口は

3,963 万人

内訳：

登録ゴルファー：800 万人

未登録ゴルファー：3,160 万人

登録ゴルファー人数

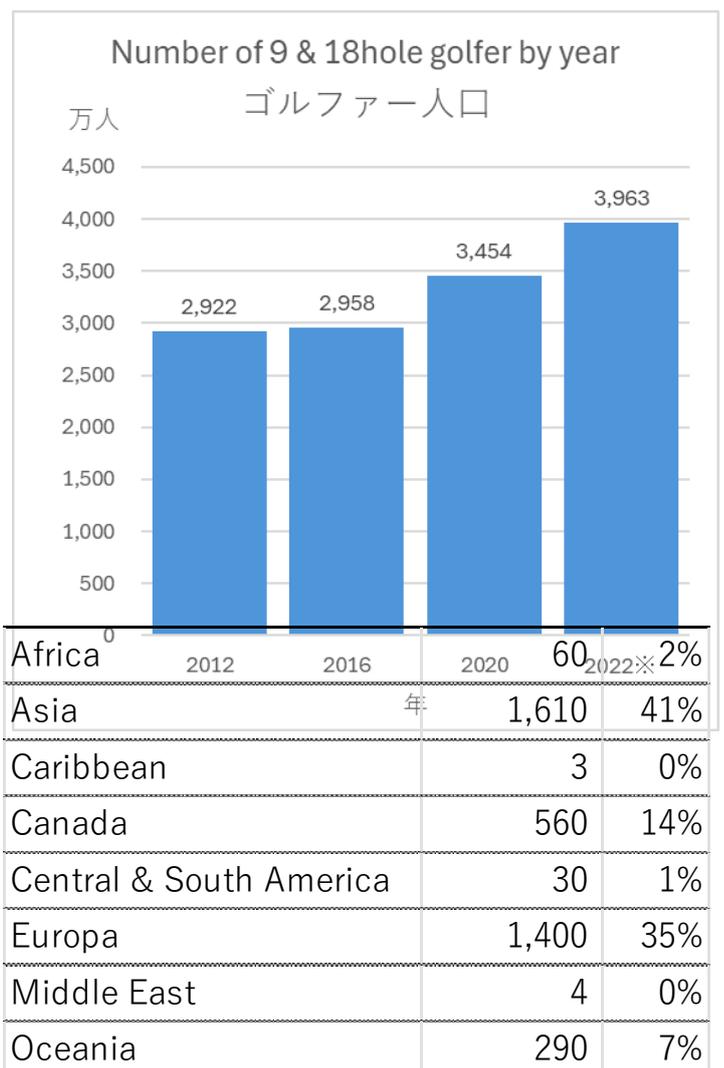
800 万人

登録ゴルファーとは；R&A の基準ではゴルフ倶楽部の会員または各国のゴルフ連盟に加盟している会員を表しています。

日本の登録者数は、70 万 7,580 人と報告されています。

●2020 年に比べ世界のゴルフ人口は 15%増加

※R&A は集計基準を 2022 年に変更しており、データに連続性はありません（NGF の項参照）



●米国のゴルフ人口は

最新の NGF 調査 (<https://www.ngf.org/golf-participation-update-bigger-younger-and-cooler/>) によると、

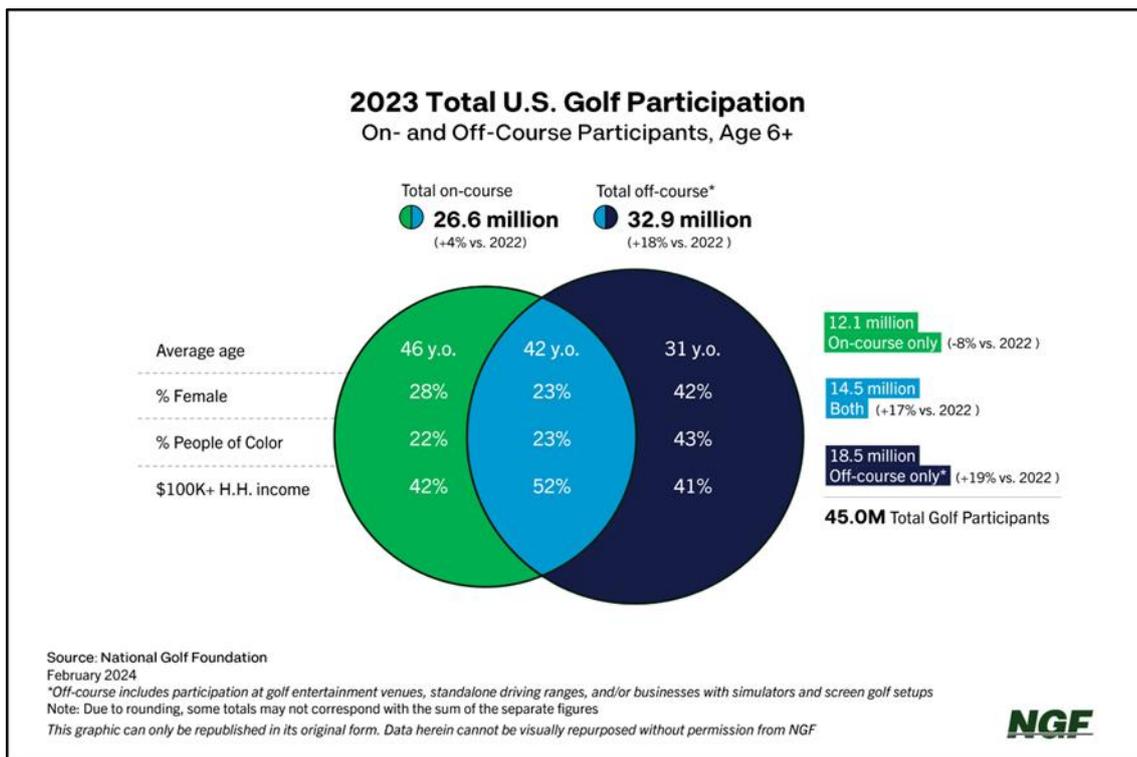
米国のゴルフ人口(6 歳以上)は：

●ゴルフコース (On Course) **1,210 万人**

●コース以外 (Off Course) **1,850 万人**

●両方に参加 **1,450 万人**

コース以外の参加者とは、ゴルフ練習場、屋内ゴルフシミュレーター、Top Golf & Drive Shaft などエンターテインメント施設を利用した人



NGF は、9 ホール以上のゴルフ場でプレーする (On Course) 人以外にレクリエーションとしてプレーしている人たちも含めると 2,600 万人以上がゴルフを楽しんでいるとしています。R&A も 2022 年の調査対象基準を NGF と同等な内容に変更しています。英米では、ゴルファーの対象を広くして、On Course ゴルファーの増加につなげようというマーケット戦略をとっています。

参考資料：

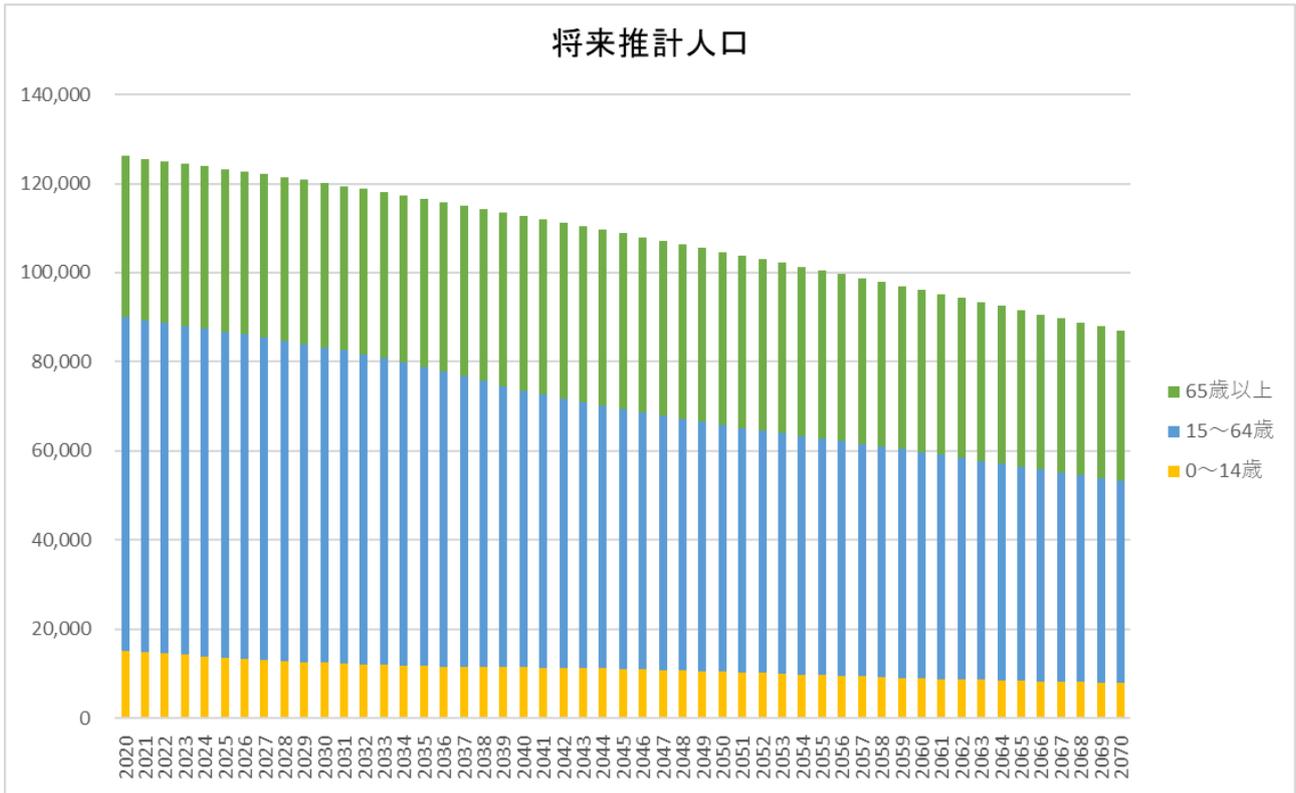
予想される業界のトレンド

将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

総数、年齢3区分（0～14歳、15～64歳、65歳以上）別総人口及び年齢構造係数：出生中位（死亡中位）推計

年次	人 口 (1,000人)				割 合 (%)		
	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
令和 2 (2020)	126,146	15,032	75,088	36,027	11.9	59.5	28.6
3 (2021)	125,527	14,792	74,508	36,226	11.8	59.4	28.9
4 (2022)	124,978	14,515	74,196	36,266	11.6	59.4	29.0
5 (2023)	124,408	14,202	73,858	36,348	11.4	59.4	29.2
6 (2024)	123,844	13,915	73,466	36,463	11.2	59.3	29.4
7 (2025)	123,262	13,633	73,101	36,529	11.1	59.3	29.6
8 (2026)	122,661	13,355	72,742	36,564	10.9	59.3	29.8
9 (2027)	122,044	13,100	72,335	36,609	10.7	59.3	30.0
10 (2028)	121,414	12,850	71,880	36,683	10.6	59.2	30.2
11 (2029)	120,771	12,625	71,367	36,779	10.5	59.1	30.5
12 (2030)	120,116	12,397	70,757	36,962	10.3	58.9	30.8
13 (2031)	119,448	12,193	70,438	36,817	10.2	59.0	30.8
14 (2032)	118,766	12,026	69,705	37,035	10.1	58.7	31.2
15 (2033)	118,071	11,879	68,949	37,243	10.1	58.4	31.5
16 (2034)	117,362	11,771	68,111	37,480	10.0	58.0	31.9
17 (2035)	116,639	11,691	67,216	37,732	10.0	57.6	32.3
18 (2036)	115,902	11,605	66,268	38,030	10.0	57.2	32.8
19 (2037)	115,152	11,551	65,230	38,371	10.0	56.6	33.3
20 (2038)	114,391	11,520	64,132	38,739	10.1	56.1	33.9
21 (2039)	113,619	11,474	63,080	39,066	10.1	55.5	34.4
22 (2040)	112,837	11,419	62,133	39,285	10.1	55.1	34.8
23 (2041)	112,045	11,360	61,254	39,431	10.1	54.7	35.2
24 (2042)	111,243	11,292	60,451	39,500	10.2	54.3	35.5
25 (2043)	110,434	11,214	59,691	39,529	10.2	54.1	35.8
26 (2044)	109,620	11,126	58,989	39,505	10.1	53.8	36.0
27 (2045)	108,801	11,027	58,323	39,451	10.1	53.6	36.3
28 (2046)	107,981	10,919	57,720	39,342	10.1	53.5	36.4
29 (2047)	107,159	10,801	57,125	39,232	10.1	53.3	36.6
30 (2048)	106,336	10,676	56,529	39,131	10.0	53.2	36.8
31 (2049)	105,512	10,544	55,945	39,022	10.0	53.0	37.0
32 (2050)	104,686	10,406	55,402	38,878	9.9	52.9	37.1
33 (2051)	103,859	10,263	54,900	38,696	9.9	52.9	37.3
34 (2052)	103,029	10,115	54,409	38,505	9.8	52.8	37.4
35 (2053)	102,195	9,965	53,941	38,288	9.8	52.8	37.5
36 (2054)	101,355	9,813	53,500	38,042	9.7	52.8	37.5
37 (2055)	100,508	9,659	53,070	37,779	9.6	52.8	37.6
38 (2056)	99,654	9,507	52,652	37,495	9.5	52.8	37.6
39 (2057)	98,792	9,357	52,213	37,222	9.5	52.9	37.7
40 (2058)	97,920	9,209	51,771	36,939	9.4	52.9	37.7
41 (2059)	97,038	9,067	51,286	36,685	9.3	52.9	37.8
42 (2060)	96,148	8,930	50,781	36,437	9.3	52.8	37.9
43 (2061)	95,249	8,800	50,273	36,176	9.2	52.8	38.0
44 (2062)	94,342	8,677	49,748	35,916	9.2	52.7	38.1
45 (2063)	93,428	8,563	49,205	35,660	9.2	52.7	38.2
46 (2064)	92,509	8,457	48,659	35,392	9.1	52.6	38.3
47 (2065)	91,587	8,360	48,093	35,134	9.1	52.5	38.4
48 (2066)	90,663	8,270	47,531	34,861	9.1	52.4	38.5
49 (2067)	89,739	8,188	46,976	34,575	9.1	52.3	38.5
50 (2068)	88,819	8,113	46,434	34,273	9.1	52.3	38.6
51 (2069)	87,904	8,042	45,879	33,983	9.1	52.2	38.7
52 (2070)	86,996	7,975	45,350	33,671	9.2	52.1	38.7

各年10月1日現在の総人口（日本における外国人を含む）、令和2年（2020）年は、総務省統計局『令和2年国勢調査 参考表：不詳補充結果』による。



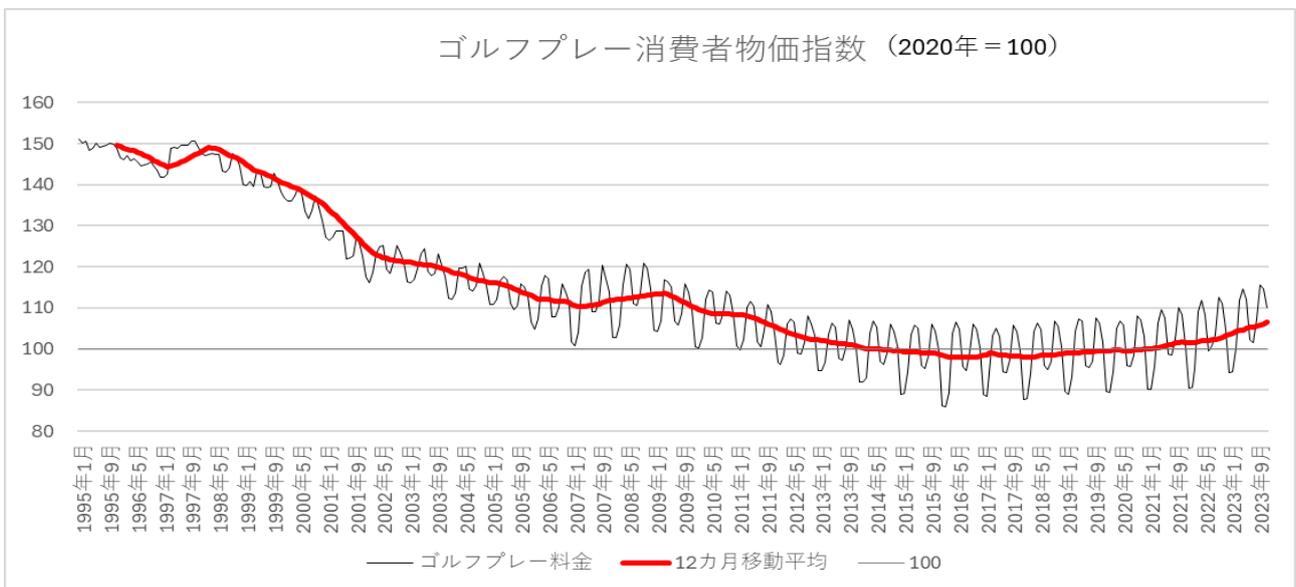
●移動平均でみるゴルフ消費

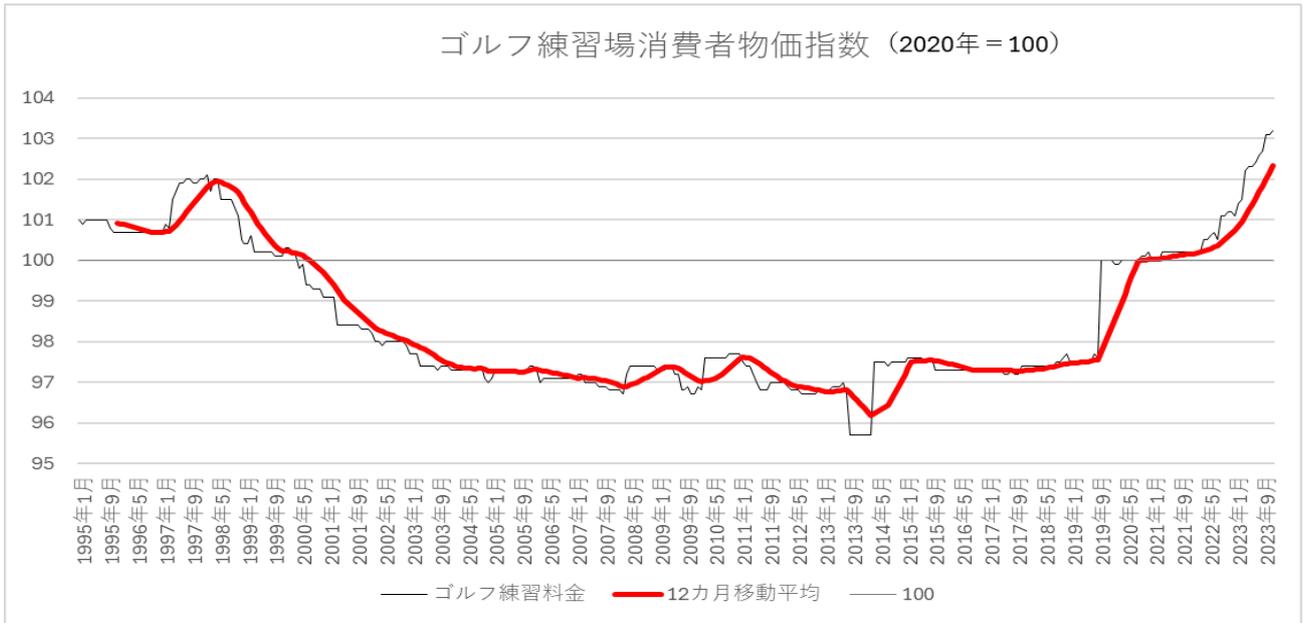
移動平均は、時系列データの平滑化やトレンドの把握に用いられる統計的手法です。特に、季節変動やランダムなノイズを除去して、データの傾向を把握するのに有用です。

総務省の消費者物価指数のデータからゴルフ消費の動きをまとめると、

個人消費の動きですが、ゴルフに対する個人消費は増加していることが分かります。ただし、個人消費は活発でも、ゴルフマーケット全体が活発かどうかは別モノです。

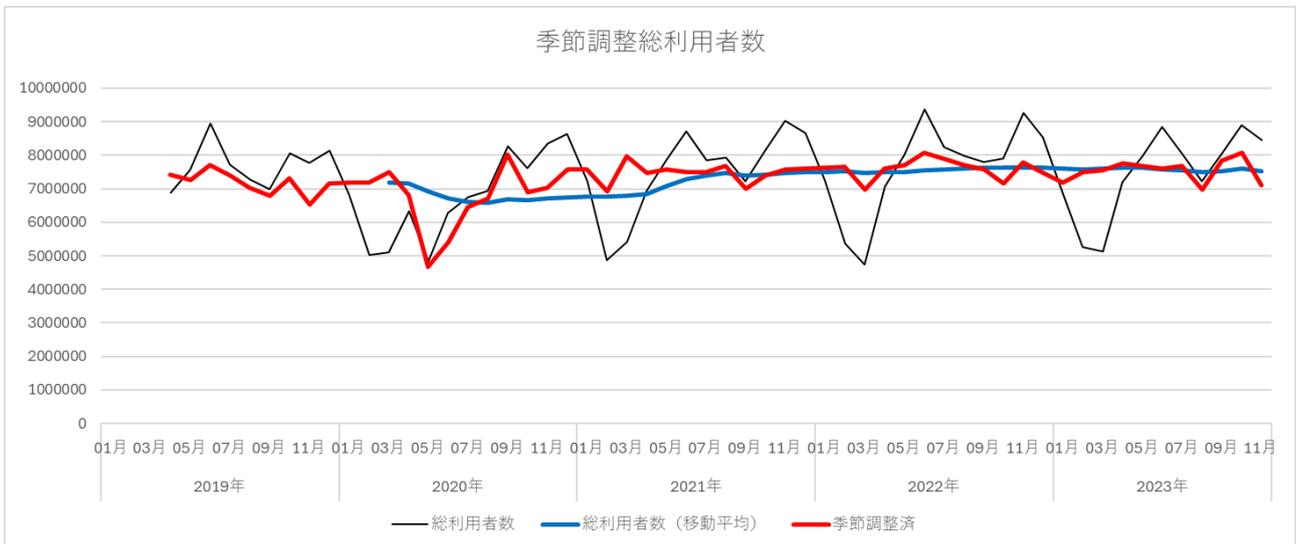
JGRA の資料にもありますが、ゴルフ練習場の利用者数は減少傾向が現れているようです。プレー費用×利用者数=市場規模(金額ベース)という式からは、現状への懸念が出てくることになります。





● 季節調整

● ゴルフ場利用者数は、1、2月は冬季の影響を受けて、ほとんどの地域で少なく推移します。5、6月と9、10月の期間はゴルフプレーに最適なシーズンで利用者数が増えます。こうした主に天候要因に影響される季節要因を除き、直近の動向を把握する手法として季節調整が行われます。NGKの発表するゴルフ場利用者数の月毎の速報値を季節調整した結果が次のグラフです。2023年の利用者動向がこのグラフから読み取れることなのですが、どうでしょうか？



●サービス評価につながる因子を見つける分析として、主成分分析という統計分析手法があります。スポーツ庁の世論調査にあるゴルフをした理由について主成分分析を行った結果が以下のようになります。

主成分分析の結果

	健康のため	体力増進・維持のため	筋力増進・維持のため	楽しみ、気晴らしとして	運動不足を感じるから	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	家族のふれあいとして	友人・仲間との交流として	美容のため	肥満解消、ダイエットのため
第一主成分	0.37	0.44	0.42	0.1	0.36	0.31	0.18	0.11	0.07	0.29	0.35
第二主成分	0.25	0.18	0.1	-0.47	0.16	-0.26	-0.46	-0.31	-0.49	-0.12	0.13
第三主成分	0.23	0.33	0.16	0.4	0.07	-0.28	-0.11	-0.28	0.38	-0.48	-0.31

この主成分分析の結果は、ゴルファーがゴルフに求めているものを以下のように解釈できます。

- 1. 健康と体力の維持・増進：**第一主成分が「健康のため」「体力増進・維持のため」「筋力増進・維持のため」などの項目に強く関連していることから、ゴルファーはゴルフを通じて健康と体力の維持・増進を求めていると考えられます。
- 2. 楽しみと交流：**第二主成分が「楽しみ、気晴らしとして」「友人・仲間との交流として」の項目に強く関連していることから、ゴルファーはゴルフを楽しみ、友人や仲間との交流の場として利用していると考えられます。
- 3. 美容とダイエット：**第三主成分が「美容のため」「肥満解消、ダイエットのため」の項目と逆の関連性を持っていることから、一部のゴルファーはゴルフを通じて美容とダイエットを求めていると考えられます。

●ゴルフ市場活性化委員会参加ゴルフ団体と各団体ホームページ URL

公益財団法人日本ゴルフ協会（JGA）

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-24-2 八丁堀第一生命ビルディング 4階
<http://www.jga.or.jp/jga/jsp/>

一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会（NGK）

〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-7-6 鈴木ビル 3階
<https://www.golf-ngk.or.jp/>

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会（PGS）

〒104-0042 東京都中央区入船 2-10-8 オーク入船ビル 4階
<http://www.pgs.or.jp/>

一般社団法人日本ゴルフ用品協会（JGGA）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-11-11 神田小林ビル 4階
<https://www.jgga.or.jp/>

公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟（JGRA）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-17-5 原宿シュロス 303号
<https://www.jgra.or.jp/>

日本ゴルフジャーナリスト協会（JGJA）

〒135-0016 東京都江東区東陽 4-12-20-511 株式会社清流舎内
<https://jgja.jp/>

Memo :